

令和2年度在宅療養推進事業 の進捗について（企画）

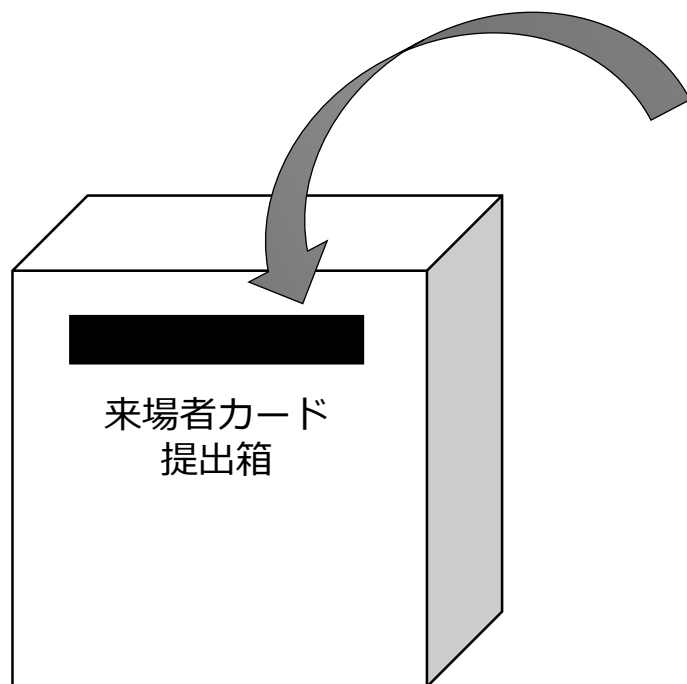
- ・在宅療養講演会
- ・事例検討会

在宅療養講演会

日程	場所	講師	定員等
第1回 9月13日（日）	区民・産業プラザ Coconeriホール	薬師堂診療所 医師 平良 眞一郎 ほか	定員：100名 申し込み：111名 参加：93名
第2回 11月1日（日）	石神井区民交流センター	てらもとクリニック 医師 寺本 研一 ほか	定員：60名 申し込み：329名 参加：74名
第3回 1月31日（日）	光が丘区民センター	メディケアクリニック石神井公園 医師 長濱 久美 ほか	定員：60名

新型コロナウイルス感染症拡大防止への対策 （在宅療養講演会）

- 来場者カードを事前送付し、受付での接触を減らす
- 席の間隔を1.5mずつ空ける
- 会場入り口付近で検温、アルコール消毒
- 可能な限り換気する
- マスク着用を促す



来場者カード（例）

当日は、自宅で検温し体調に問題がないことを確認してからお越しください。

下記について事前に記入し、当日受付に提出してください。

お名前： _____

連絡先： _____

在宅療養講演会（第1回）

《タイトル》

がん患者とその家族-在宅医療の役割-

《ターゲット》

在宅療養を支えるご家族（主にがん患者）

《内容》

がん治療とがんの緩和ケア

臨終を迎える患者の家族ケア、ACP



第1回在宅療養講演会

令和2年度 練馬区在宅療養推進事業
第1回在宅療養講演会

がん患者とその家族
-在宅医療の役割-

参加無料

日時 令和2年9月13日(日) 午後2時から4時
場所 Coconeriホール
定員 100名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます
主催 練馬区地域医療課

※新型コロナウイルス感染症の拡大等により、開催が中止になる可能性があります。

講師：平良 真一郎 先生
(脳研堂診療所 院長)

私は、大学病院で外科医として10年勤務した後、日本のがん医療をけん引するがん研究会有明病院で腫瘍内科医として、乳癌、消化器癌、膵臓癌などの多様ながん患者様を診療して参りました。医療は患者様とご家族が、地域で安心してがん治療、それに併存する生活課題を管理、在宅医療や外来入院での症状緩和治療を受けられる医療機関を目指しています。がんには従来するものではないもの、ターミナルステージに入っても症状緩和治療を適切に受けることで予後が良くなる場合もございます。今回のお話が、がん治療に対する理解を深める一助となれば幸いです。

プロフィール
東京医科大学医学部医学科卒業、東京医科大学八王子医療センター臨床腫瘍科科長、東京医科大学看護学部准教授、がん研究会有明病院腫瘍科副科長などを歴任し、2019年より東京医科歯科大学附属練馬区地域医療推進センター副センター長に就任。

講師：関 かわり 氏
(豊玉地域包括支援センター)

講演タイトル：住み慣れた地域で支えあおう ～在宅生活に寄り添う地域包括支援センター～
在宅で安心して暮らしていただけたら、地域の包括支援センターの役割と、それを支える医療・介護関係者との連携を、相談事例をもとに紹介します。

《申込・問い合わせ》
電話で練馬区地域医療課まで ☎03-5984-4673
右のQRコードからインターネットでの申し込みも可能です

在宅療養講演会（第1回）

《アンケート抜粋》

【問4】講演を聞いて、人生の最終段階における受たい医療・介護、受たくない医療・介護について家族や医療・介護スタッフと話し合いたいと思ったか

とても思った……………26名（37.1%）

思った……………37名（52.9%）

思わなかった……………7名（10.0%）

まったく思わなかった……………0名

【問5】講演に参加して、医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたいと思ったか

思った……………35名（49.3%）

思わなかった……………6名（8.5%）

わからない……………30名（42.2%）

【問5で「思わなかった」「わからない」と回答した人の、その理由】

- ・自分におきかえて考えると、答えが出ない
- ・過ごしたい気持ちはあるが、その時の身の回りを取り巻く環境などを総合してどこで療養するのが適切かを考える必要があるかなと思います。
- ・同居家族にどれだけの負荷がかかるか、その時にならなければ分からないため、現時点では分からない。

在宅療養講演会（第2回）

「タイトル」

自宅で最期を迎えるために-独り暮らしになる前に考えておきたい事 独り暮らしだからこそ考えたい事-

「ターゲット」

独り暮らしの高齢者

「内容」

独りで最期を迎えるために必要なこと
独り暮らしの看取りの事例、ACP

「アンケート」

集計中

令和2年度 練馬区在宅療養推進事業
第2回在宅療養講演会

自宅で最期を迎えるために

— 独り暮らしになる前に考えておきたい事
独り暮らしだからこそ考えたい事 —

参加無料

日時 令和2年11月1日(日) 午後2時から4時
場所 石神井公園区民交流センター
定員 60名 先着順にてお申し込み、満席の場合はキャンセルとなります
主催 練馬区地域医療課

※新型コロナウイルス感染症の拡大により、講演会が中止になる可能性があります。

講師：**寺本 研一 先生**
(てらもとクリニック 院長)



私は大学病院で癌がんや肝がん、脳腫瘍の外科治療を専門にしておりました。退職してからは消化器科専門医として、胃癌の術後や生活習慣病など幅広く診療にあたりおりました。現在、私の最大の関心の一つは「少しでも安心して人生の終わりを迎えた場所での過ごし方」ということです。誰一人同じ最期の経過はありません。人の人生は様々な、一人ひとりのストーリーがあります。今回のテーマは「独りで最期を迎えることができるか」です。ご一緒に考えてみましょうか？

<プロフィール>
東京医科大学大学院卒業。伊豆医療センター外科部長、UCLA研修、ハーバード大学客員助教授、東京医科歯科大学客員教授を経て、2007年よりてらもとクリニック院長、東京医科歯科大学教授兼務。

講師：**牧島 美香 氏**
(石神井地域包括支援センター 看護師・主任介護支援専門員)

講演タイトル：「在宅医療における地域包括ケアシステム」～本人の緩和支援を担って～

在宅で安心して暮らしていただくための、地域包括支援センターの役割と、それを支える医療・介護関係者の仕事について紹介します。

【申込・問い合わせ】
電話で練馬区地域医療課まで ☎03-5984-4673
右のQRコードからインターネットでの申し込みも可能です



今後について

- コロナ禍においても、人数を減らす等の工夫をしながら講演会を継続する。
- 会場に行かなくても講師の話が聞けるように、講演の録画をホームページで公開できるように検討する。

事例検討会

日程	コーディネーター	タイトル
第1回 9月25日（金）	練馬区リハビリテーション従事者連絡会 渡辺 浩之（作業療法士）	人生会議（ACP） ～それは本当に本人の本心なの か？～
第2回 10月9日（金）	シルバーケアクリニック 長坂 不二夫（医師）	ACPなしで本人のことを決められ るのか？ ～本人の意思が不明で方針決定が 困難な家族の症例～
第3回 11月27日（金）	ホームクリニックのどか 豊島 究（医師）	若年発症難病患者の憂い ～あなたは誰に介護をしてもらい たいですか～
第4回 1月23日（土）	大泉学園地域包括支援センター 川名 珠美（主任介護支援専門員） 工藤 美紀（看護師）	

※定員は会場参加60名、Zoom参加30名

新型コロナウイルス感染症拡大防止への対策 （事例検討会）

- 会場参加者数を減らす（128名⇒60名）
- Zoom参加に対応（人数30名）※参加者にはZoomテスト会の参加を促す
- 1班あたりの人数を減らし（8名⇒6名）、隣との間隔を1.5m程度確保
- 会場入り口付近で検温、アルコール消毒
- 可能な限り換気する
- マスク着用を促す



Zoom開催の様子

《Zoom参加者の流れ》

- ①事例の講義（全員で受講：会場中継）
- ②グループワーク（班に分かれて実施：ブレイクアウトセッション）
- ③発表（全員で受講：会場中継）
- ④まとめの講義（全員で受講：会場中継）

《起きたトラブル》

- 40分制限により、会場とZoom参加の同時進行を断念。切り分けて運営した。（第1回）
- Zoom発表者の音声が生会場のスピーカーから流れなかった（第2回）



第2回事例検討会

アンケート（Zoom参加者）より

- ・グループ討議はあらかじめファシリテーターを決めておくなど工夫が無いと盛り上がり欠ける。より良い形でZOOM開催ができれば是非参加したいが、やはり直接顔を合わせた方が良いと思う
- ・ZOOMに不慣れなため、何度も電話で確認できて大変安心した。おかげで無事に事例検討会に参加することが出来た。今後同じ操作であれば安心してZOOMでの参加が出来る。
- ・今後もオンライン研修は充実させていかなければならないと思うので、オンラインの技術に習熟することと、オンラインならどのように声かけをすれば講義やグループ討議が盛り上がるかを考えていかなければならないと思う。

今後について

- 会場参加とZoom参加の一体感を持たせるため、Zoom参加者の発表の機会を設ける。
- Zoom参加の枠を増やせるように検討する。